

GC研究懇談会 2007 年度 事業報告

「第 281 回ガスクロマトグラフィー研究会」－講演会－

「自動車内装材のVOCの分析」

2007 年 6 月 7 日（木） 薬業健保会館にて

－主題講演－

1. 「車室内空気成分に対する自動車業界の取り組み」 (株)いすゞ中央研究所 達 晃一氏
2. 「自動車部品から放散する空気成分の測定法」 (株)いすゞ中央研究所 達 晃一氏
3. 「車室内空気質と VOC 測定法」 (株)豊田中央研究所 岩井 幸一郎氏

－技術講演－

1. 「自動車内装材料から放散する SVOC の簡易分析法」
アジレント・テクノロジー(株) 中村 貞夫氏
2. 「サンプリングバッグ法／チャンバー法による自動車内装材からの放散ガス測定」
ジーエルサイエンス(株) 岩崎 貴氏
3. 「におい識別装置 FF-2A による、自動車室内大気質の連続モニター」
(株)島津製作所 喜多 純一氏

－その他－

「ガスクロ Q&A 出版にあたり、質問内容の紹介」 保母委員長

100 名程度の参加者があった。

－意見交換会－

第 13 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会

－応用（アプリケーション）のための基礎－

2007 年 8 月 1 日（水）～3 日（金） 首都大学東京南大沢キャンパスにて

1 日目（8 月 1 日（水））＜講義＞

- ① 「キャピラリーガスクロマトグラフィーの基礎理論」
(都立大名誉教授) 保母 敏行
- ② 「キャピラリーガスクロマトグラフィーにおけるカラム、試料注入法」
(株)島津製作所 和田 豊仁
- ③ 「ガスクロマトグラフィーにおける試料前処理法、導入法、装置」
(ジーエルサイエンス(株)) 武井 義之
- ④ 「ガスクロマトグラフィーにおける検出器の原理と使用法」
(有) GC 技術研究所 竹内 正博
- ⑤ 「GC/MS の基礎と応用例」
(アジレント・テクノロジー(株)) 代島 茂樹

2・3 日目（8 月 2 日（木）・3 日（金））＜実習＞

テーマ 1: 「試料注入法」

テーマ 2 : 「GC における分離、カラムの選択」

テーマ 3 (下記いずれかを選択)

3-1 : 「試料の前処理・導入法 (誘導体化)」、3-2 : 「試料の前処理・導入法 (パイロライザーを使用した熱分解GC)」

テーマ 4 (下記いずれかを選択)

4-1 : 「GC/MS (定性分析の実際)」、4-2 : 「GC/MS (定量分析の実際)」

40 名程度の受講者があった。

「第 282 回ガスクロマトグラフィー研究会」—講演会—

「鑑定・検査、犯罪の防止のためのクロマトグラフィー」

2007 年 9 月 7 日 (金) 警察庁 科学警察研究所にて

1. 「薬物プロファイリング」 科学警察研究所 井上 博之氏
2. 「毒物事件、化学テロと分析化学」 科学警察研究所 瀬戸 康雄氏
3. 「Clinical Forensic Toxicology ” 毒の検証”」 日本医科大学 仁平 信氏
4. 「ケモメトリックスを使用する際の注意点とパターン認識のコツ」
ジューエルサイエンス 山地 武広氏
5. 「Calibration Locking Database 法を用いた GC/MS による微量有機化合物の検出と定量」
西川計測 山上 仰氏

30 名程度の参加者があった。

—意見交換会—

「第 283 回ガスクロマトグラフィー研究会」 日本分析化学会第 56 回年会

2007 年 9 月 19 日 徳島大学にて

「食品中の正確かつ効率的な残留農薬分析」 元神戸検疫所 平原 嘉親氏

60 名程度の参加者があった。

「第 284 回ガスクロマトグラフィー研究会」 日中韓環境分析研究交流会シンポジウム

2008 年 11 月 5-7 日 韓国済州島にて第 9 回 ASI ANALYSIS の特別セッションとして開催

40 周年記念事業として始まった海外交流の 6 回目で、CJK Symposium の形になって 4 回目の開催です。日本から 25 名、中国から 10 名の参加者があり、発表 33 件 (口頭 23 件、ポスター 10 件)、中国・韓国からの参加者の研究レベルも高く、発表分野も多岐にわたり様々な分野で大いに情報交換を行うことができました。会場には 100 名程度の聴講者がおりました。分析化学会から上野景平基金を頂き、GC、LC、FIA、IC 懇の各委員長の参加を得た他、環境分析研究懇談会や企業をはじめ多くの方々の支援と協力を得ました。



「第 285 回ガスクロマトグラフィー研究会」 セパレーションサイエンス (SS2007)

2007 年 11 月 27～28 日 千葉大学にて

講演「ECD-GC の応答特性とその有効利用について」

GC 技研 竹内正博氏

SS2007 の参加者は約 100 名でした。

「第 286 回ガスクロマトグラフィー研究会」 ー特別講演会ー

2007 年 12 月 7 日 (金) 薬業健保会館にて

「地球規模の環境汚染」

< 基調講演 >

1. 「黄砂の長距離輸送と東アジアの大気環境」

国土交通省気象庁気象研究所

三上 正男氏

2. 「POPs および POPs 候補物質の地球規模の汚染の過去復元と将来予測」

(株) 島津テクノロジー

高菅 卓三氏

< 主題講演 >

1. 「塩素系芳香族化合物の全異性体分析と環境モニタリング」

兵庫県健康環境科学研究センター

中野 武氏

2. 「PFOS の測定と汚染の現状」

岩手県環境保健研究センター

齋藤 憲光氏

3. 「大気中の有害大気汚染物質の安定同位体比計測による発生源推定法の研究」

(財) 日本自動車研究所

秋山 賢一氏

<技術講演>

1. 「シリンジニードル一体型固相カートリッジ(MEPS)を用いた新しい前処理の形—MEPSの紹介」
エス・ジー・イー・ジャパン (株) 中島 信行氏
 2. 「ポリマーの光・熱・酸化劣化評価法のための、新しいオンライン UV/Py-GC/MS 法の開発といくつかの応用分析例」
フロンティア・ラボ (株) 穂坂 明彦氏
 3. 「GC/MS/MS 分析のご紹介」
サーモフィッシャーサイエンティフィック (株) 杉立久仁代氏
 4. 「キャピラリーフローテクノロジーを用いたアプリケーションの紹介」
アジレント・テクノロジー (株) 関口 桂氏
 5. 「MDGC/MS システムの環境分析への適用」
(株) 島津製作所 平岡 敬朗氏
 6. 「GC x GC-MS の環境分析への応用」
ゲステル (株) 落合 伸夫氏
- 100 名程度の参加者があった。

—意見交換会—

「第 287 回ガスクロマトグラフィー研究会」 —総会と講演会—

2008 年 2 月 29 日 (金) 薬業健保会館にて

総会

2007 年度事業報告・会計報告

2008 年度事業計画・予算案

講演会

<主題講演>

1. 「GC-ICPMS 法の開発と燃料中硫黄の高感度分析」
(独) 産業技術総合研究所 田尾 博明氏
2. 「バイオディーゼルの分析について」
(株) 島津製作所 和田 豊仁氏

<技術講演>

1. 「キャピラリー・フロー・テクノロジーを用いた燃料分析の紹介」
アジレント・テクノロジー 関口 桂氏
2. 「油汚染土壌における TPH 測定の紹介」
(株) ダイヤ分析センター 杉田 和俊氏

【出版】

ガスクロ自由自在 Q & A 「分離・検出編」、「準備・試料導入編」

監修：保母敏行、古野正浩 各 3,360 円 (税込) 丸善

GC研究懇談会 2008 年度事業計画

「第 288 回ガスクロマトグラフィー研究会」－講演会－

2008 年 4 月 25 日（金） 島津製作所東京支店 イベントホールにて
講演テーマ「GC カラムの基礎、現状、今後」

5 月 15～16 日 第 69 回分析化学会討論会 名古屋国際会議場にて

7 月頃 第 14 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会

8 月頃 ガスクロマトグラフィー研究会 見学会

9 月 10～12 日 日本分析化学会第 57 年会 福岡大学 講演会

秋 セパレーションサイエンス (SS2008)

11 月 日中韓研究交流会シンポジウム、 開催地はアモイ大学（中国）

12 月 特別講演会（GC 研究懇談会 50 周年記念）

2 月 総会と講演会

【特別事業計画】

①出版：役に立つガスクロ分析（みみずく舎）

②アーカイブ：ガスクロ研究懇談会 50 年の歩み

③GC 研究懇談会 300 回記念事業（2009 年度）

以 上